

## 国内研修レポート

2019年2月3日から5日までの三日間、長崎県の小値賀島と出島に国内研修に行きました。

授業で学んだ情報や知識などを、実際に目で見たり現地の方に話を聞いたりして、その地域ではどのように町おこしや地域づくりに活用されているか、地域住民の方々のまちづくりに関する考え、などを知りたいと思い、ここで体験したことをこれから地域づくりの授業でさらに深く調べたり、将来の自分の仕事や活動などで活かせられるようにしたいと思ったことが国内研修に行こうと思ったきっかけです。

授業内で長崎県の出島の復興プロジェクトについて少し学んだことと、小値賀島を私の所属していたクラスの担当の教授にお勧めしていただいたことによって、長崎県を研修先に決めました。

まず、1日目から2日目にかけて小値賀島に行きました。島に着いた日は日曜日で、案内をしてくれた方が、日曜日は島のお店などはお休みしていることや、コンビニは24時間営業ではないことなどを教えてくださいました。私たちが宿泊したのは、もともと人が住んでいたけれど空き家になってしまっていた古民家をリノベーションした古民家ホテルです。今では都会ではありません見ることの出来ないような、畳の部屋や縁側など昔からの日本の民家の雰囲気は残しつつ、現代の人でも過ごしやすいように、お風呂やトイレは現代風になっていて、古民家と現代の家が上手く合わさっていると感じました。夜ご飯は古民家レストランで食べました。ここも昔ながらの古民家を活用した建物ですごくきれいでした。出てきた料理はほとんどが小値賀島でとれた新鮮な魚や貝など、どれも食べたことのない食材ばかりで、しかもここでしか食べられないような料理で本当においしかったし、何よりお店の方の親切で丁寧な対応がとても温かかく、心休まる空間でした。

2日目に、島の観光業を担っている小値賀アイランドツーリズムさんに話を伺ったところ、民泊は、はじめは、野崎島に来た子どもたちを何日かあずかるという目的でやっていたことを観光客にも利用してもらおうということで始まったもので、初期は民泊をしてくれる家庭も少なかったけれど何度も説明をして理解してもらうことでだんだんと民泊をしてくれる家庭を増やしていくといったということでした。島の方は、自分の本業やそれに対するプライドもあり、なかなか観光業に携わることができない、という方も多いけれど、もともと根付いているおもてなしの文化もあり、こういった観光業を快く受け入れてくれる人も多いといいます。話を聞いていて驚いたのは、テレビなどによる小値賀島の情報の発信は、小値賀アイランドツーリズムさん自らではなく、紹介させてほしいという依頼があつてやっていることで、小値賀島の実際の姿をそのまま伝えてくれるところだけに頼んでい

る、ということでした。確かにテレビなどで自分たちの強みだけを紹介すればそれだけ観光客も増え、活気は出るかもしれないけれど、来てくれるのは一回きりになってしまう。そうではなく何度も来てくれるようなひとを増やすためには島の本来の姿を伝えるべきだという考えに、島の一時期の繁栄だけを考えているのではないということがすごく伝わってきました。また、民泊だけでなく、夕ご飯だけ住民の方の家にお邪魔して一緒にご飯を作る体験や、島を自転車で巡ることもできるような様々な体験が用意されており、どの体験も島の方々とふれあうことができるため、小値賀島でしか体験できないような生活や島の人々の温かさを感じることができます。実際、私たちも島でサイクリングをしていたら、すれ違う人みんなが「こんにちは！」とあいさつをしてくださり、どんな人でも迎え入れるような気持ちがこの島の人気の理由だと感じました。

3日目は出島復元整備室の学芸員の方に話を伺いました。出島の復元整備事業はもともと1951年にスタートしており、出島の姿をよみがえらせるためにまず土地を市が買収することから始めたそうです。日本と外国をつなぐ窓口となり、日本の近代化において重要な役割を担っていた出島を現代に伝えていくことが大きな目的となっていて、より詳しい情報を得るために買収した土地を発掘調査することによって、過去の出島をより忠実によみがえらせることができたり、新たな発見があったりしたそうです。観光客も年々増加しているそうで、実際に出島を探索してみると、部屋の家具まで当時の様子を再現している部屋があったり、出島で行われていた貿易に関するクイズや物品の展示がされていたりと、出島の歴史について学びながら観光ができました。復元する際にかかる費用が税金から出ているということで、もともと出島があった場所に住んでいた人々や、市に住む人々からの反対の声というのが復元事業を行っていく上での課題として挙がっていて、出島を復元する、ということがどれだけ歴史的価値のあることなのか、というのをうまく伝えることができなければ地域住民や市民の方は納得してくれないとと思うので、そこを乗り越えるために説明会を開いたり、一件ずつまわったりなど、地道な努力がすごいと感じました。

今回の国内研修で学んだことは、人にただ観光に来てもらうため、ではなく何回も来てもらうにはどういったおもてなしや地域全体での観光客に対する気持ちが必要なのかを想像し実現する力と、その地域にある歴史的な価値を現代に伝えるという目的を持った的づくりです。地域を活性化させていくためには、目新しいものを作ったり、人が興味を持ちそうなものを作ったりするだけではなく、独自性というが必要だと考えます。その独自性というのは、目に見えるものだけではなく、そこに住む人々の人間性やつながりであったり、過去から伝わってくる歴史であったりすると思います。その目に見えないようなものをいかにほかの地域の人や観光客に伝えることができるかが、まちづくりをしていく上で大切なことであるということを学ぶことができました。